2003.12
Vol.3
[シリパのほし]
Shiripaの星
H.S
北星学園余市高等学校同窓会誌

越前唐津で独自の世界

6期　三　好　建太郎

もやもやして殺気立った札幌の高校を放校され、北星余市に拾ってもらいました。

時間が止っている様で静かな余市海岸をシリパを見ながらブラブラ歩いて学校に行き怒られたり、あんなこと、こんなこと、言えないことといっぱいやりました。そのためか北星に1年しかいないのに3年いたと思っている先生、学友がいます。卒業目前赤点11教科、1週間徹夜に近い状態でつきあって勉強を教えてくれた学友、先生達が目をつぶって卒業させてくれました。陶芸の道へ入るきっかけも作っていただきました。

それから30年陶芸一筋でやってきました。各地の高島屋の美術画廊で個展を開いています。今は11月の末の横浜高島屋での個展に向い作陶に励んでいます。

陶歴

1953年　北海道に生まれる
73年　茨城県笠間にて修業
75年　茶陶唐津・徳澤守俊先生に師事
79年　武生市粟野町にて割竹式薪窯を築く
82年　木村盛和先生の指導を受ける
86年　横浜高島屋にて個展（88・90・94・97・00）
94年　大阪高島屋にて個展（97・00・03）
95年　岐阜高島屋にて個展（98・01）
96年　高崎高島屋にて個展（99・02）
98年　日本橋高島屋にて個展（01）

現在の三好さん

〒915-1242
福井県武生市粟野町3の17
三　好　建太郎
TEL・FAX　0778(28)1132

あの頃

高3のある日の国語の時間、山先生が箱の中から大事そうに1枚の絵皿を取り出し、私達に見せて下さった。雄々しい馬が描かれた陶皿は、陶芸家の道を歩みはじめられた三好さんの作品だった。学生時代の三好さんはさまざまな場面で「ナンセンス！」と叫び、既存の物事に反発する教師や同級生から一目おかれる存在だったらしい。しかし、壊しっ放しで終るのではなく、そこから新しい創造をし、追求する生徒だったそうだ。

今回、三好さんを紹介させて頂くきっかけになったのは、20数年前に見せて頂いたあの絵皿と山先生のお話を思い出し、その後の三好建太郎さんの歩みをのぞかせて頂きたいと思ったからだった。

一途に陶芸家としてその道を追求されている三好さんの世界を、今度、ぜひ北海道で拝見できる日を心待ちにしたい。

14期　平野満寿美

遠藤　仁誉

越前唐津、独自の世界完成

米子で三好建太郎作陶展

作品を制作中の三好建太郎さん

日本海新聞
2003年
8月6日掲載

北星余市高校 メ・モ・ラ・ン・ダ・ム

●馬場　達 先生
●高田　一弘 先生
●森　武昭（24期生）

一期生の足跡

――馬場　達

同窓生のみなさん、しばらく。私は開校した昭和40年から病気退職した平成元年迄24年間在職した。その間1期生、4期生、9期生を担任し、卒業させた。その後校長として勤務した。かぎられた紙面では書ききれないほどの数多くの思い出がある。今回は1期生のことにふれたいと思う。その他のことは次回にまわすのでかんべんしてもらう。1期生のことにふれるためには開校当時を語らねばならない。設置認可がでたのが昭和39年12月、校舎は夏休みまでに建築されるということで（実際には12月に一部完成した）取りこわし寸前にあった沢小旧舎があてがわれた。この校舎はまさにひどいの一言につきる。色あせて、はがれそうな壁、風がふきこみ、雨もりがする馬小屋同然のうす暗い教室もちろんグランドも体育館もなかった。

教師は専任8名、ほとんどが大学新卒である。劣悪な教育条件の中で生徒の荒廃状況はかなり深刻なものだった。まず授業がなりたたない。少なからぬ生徒が学校生活の現状に失望し、この怒りをどこにもっていけば良いのか。いいしれぬ挫折感をもっていた。多くの退学者をだしたことは本当に申し訳なかった。

こんな中で教師は何を考えていたか。何とか民主的な理想の学校をつくりたい。管理と処罰で生徒を押さえつけていくのでなく、みんなが自由で話し合いながら生活規律をつくっていく。そんな夢をいだいていた。

悪条件の中でも生徒会行事、学校行事に積極的に取り組む生徒の姿があった。6月の炊事遠足、7月初め西中のグランドを借りての第1回球技大会、マラソン大会、弁論大会、壁新聞コンクール、学園祭、クリスマス、1年目でひたむきな生徒の姿があった。よくがんばっている。うれしかった。個人、個人の良い面をみつけだされた。

話ははしょるが1年、2年、3年とたっていって新校舎も出来、体育館も建ち、グラウンドもみんなの協力で木を切りたおし、土をほりおこし、みごとに出来あがった。第3回学園祭は「学び考える」をテーマにし、1期生はその先頭にたって大成功に終った。先生と生徒の信頼関係も出来た。あんなに荒れていたクラスがそれぞれ1期生の自覚を高め、より良い学校生活をつくるため、卒業間際までがんばった。今北星余市があるのも1期生の大きな力があったと感謝している。

最後に全同窓生のみなさん、今、生徒数確保に北星余市は懸命の努力をしている。母校のために力強いご支援をお願いしたい。

1974年（昭和49年）の馬場先生

2003年（平成15年）の先生

今の自分の原点は北星余市

――森　武昭

周りに流され、人から言われる事しかできなかった15歳の自分が、30歳となった今、当たり前に社会に入り、自分の意思で日々を過し、北海道で生活している。

今の自分の原点は北星余市で過した3年間が大きなポイントとなっている。北星余市を卒業後、北海道・道都大学に入学、卒業後、5年間ドイツで学生生活。そして帰国後、北海道酪農学園大学に編入し卒業。今年、晴れて社会人として遅いスタートをした。

日本の社会に入るには学生生活が長く、社会に旅立つ時期は遅いが、自分の中では特に特別な事とは感じない。なぜならば北星余市で生活した3年間で皆、それぞれの持つ個性を自由に十分に伸ばし、「一人一人皆生き方が違う」ということを肌で感じたからだ。

自由というものが生きていく中で一番厳しいことなのだと知ったのも北星生活の中で知ったことである。怠けるのも自由。頑張るのも自由、何をするのも自由であった。自由とは聞こえはいいが、全ての責任を自分で持つと言う事で、決して楽な事ではなく、一生懸命やれば必ず自分に帰ってくるが、怠けたら、怠けた分だけ自分に帰ってくる事を知った。

その、自由の厳しさを高校時代の早い時期に知ったからこそ今の自分があり、どのような環境でも生きていける、例えそれが外国であっても大丈夫と言う今の自信に繋がっている。それが私にとっての北星生活であり一番良いところだと私は思うし、今後もそれをバネに力強く生きていこうと思う。

2003年（平成15年）夏 余市にて

1991年（平成3年）の森さん

貴重な北星余市での12年間

―― 高田 一弘

うれしいことに、年数回、「北星学園報」が届いています。そして、テレビ番組による全国報道。北星余市のその後を、しっかりととらえて来たつもりです。

1965年3月の入試が初仕事。同年4月から、教員1期生として12年間、北星余市で生物を担当しました。現在は初代校長山崎金治郎先生の古巣である群馬県安中市のクリスチャンスクール「新島学園中高」で教えています。根っからの甘党で体調を崩し、今は食事療法で減量に成功し、専任から非常勤に移り、理科の授業のみを受持っています。

ただ、北海道時代から続けてきた放送部に関しては、後任顧問への指導法の引き継ぎを兼ねて、アナウンス指導のお手伝いをしています。北星余市時代は番組が主体で、特にラジオ文芸部門で「鰊百句」が全国4位に輝きました…合宿して部員と徹夜で番組編集したのが懐かしく充実した思い出です。群馬での取り組みは、アナウンス・朗読部門での個別指導が中心なため、北星余市で部員が一丸となって苦楽を共にした取り組みは、今となっては貴重で連帯感を満喫できた尊い体験でした。

北星余市最後の担任のとき、生徒の発案で毎朝、日直の音頭で「唱和」を実行し、全員そろって卒業できたことを時々思い出します。学級討議と行事への取り組みが学園生活の支えであった体験は、ここ群馬に来ても、中学担任や中学部主任のときに生かすことが出来ました。

新島学園に来て驚いたのは、「教育の五原則」の原型がここに生きていたことです。山崎先生がちゃっかり北海道に移入したわけです。

今では広く全国募集をして知られる北星余市ですが、私が在任中にすでにその指導の芽が着実に育ち結実しかかっていたともいえます。そして、人間を大切にする教育が、さらに一層の磨きをかけてここにあるわけです。卒業生・在校生・保護者・教職員のみなさまのご多幸をお祈り申し上げます。

※写真は北海道犬のドッグショーのものです。現在、保存活動中です。ホームページもあります。

http://www.ainu-dog.com/

1974年（昭和49年）の高田先生

第七期同窓会

平成15年4月16日、第7期生が卒業30周年と題し、札幌のグルメシップで同窓会が行われA組担任の深谷先生、D組担任の幅口先生と7期生34名が参加しました。

同窓会の開催のきっかけは、前年4月に行われた〝深谷先生の退職に伴なうご苦労様でした会〟の席上で決まり、私も幹事の一人として同窓会の準備に加わりました。

50歳を目前にし、久々に会った仲間には卒業以来30年振りに再会する人もおり、皆それぞれに変身をとげていたので名簿を見ながら名前を確認する有様でしたが、お酒を飲み、カラオケを唄い、何故か学生時代にあまり会話をしたことの無い人と、昔話に花を咲かせられた不思議な楽しい一時を過ごすことができました。

また、深谷先生、幅口先生の参加により同窓会はより一層盛り上がりましたが、C組担任の北口先生、私のクラス担任の岩本先生が病のため参加出来なかったのは残念に思いました。

私は、同窓会に参加して学生時代に岩さんとクラスの数人でいっしょに羊蹄山に登ったこと、福祉施設のボランティア活動に参加しキャンプファイヤーで園生と皆で唄ったことなど、学生時代に経験した楽しい思い出を振り返ることができました。

7期
藤山 勇

初参加・強歩遠足から同期会へ

今年5月、12期5名が担任だった佐々木校長と飲もうという話になり、卒業以来初めて顔を見る奴もいて、その勢いで「強歩遠足に挑戦」が決定。6／14小雨の中、銀山生活改善センターに集合。しかし、5名のはずのメンバーが何故か4人、「逃げたな！」の思いが脳裏をよぎった。集合したのは12期C組本間、中村、沢田、馬場（女3人、男1人、女性は旧姓表示）。周りを見渡すと元気のよい後輩達とその親達、そして見慣れた顔の先生達。ふと親たちが我々と同世代であることに気付き、すっかりPTA気分でスタート、一路学校を目指し30kmを無心で歩き通した。幸いにして4人全員が完歩、気分爽快であった。渋る1人を除き来年も歩くことを約束したが、道連れを増すため「同期会を開いて仲間を募る」ことにした。12期初の同期会開催。来年の強歩遠足が今から楽しみになった。

新しい売店がスタート

同窓会は、昨年度から始めた校内自販機の管理で在校生や学校から好評を得ていましたが、学校からは売店の運営についても委託要請がされており、役員会ではそのことを慎重に検討してきました。その結果、仕入れルートを確保することや人件費の問題等で同窓会が直接運営に関わることはペイしないと判断しました。しかし、何らかの支援を出来ないかということで、売店を経営していただける業者を捜すことにし、松浦副会長や馬場会長の努力によって、売店運営を引き受けてくれる西川さんという余市町内の商店経営者と契約を交わすことが出来ました。

２００３年度の４月から西川ご夫妻が売店を運営してくれています。開店は朝、昼、放課後と１日３回、弁当類もそろえています。前年度まで校長先生が校長室で販売していたノートなどの文房具類も置いています。西川ご夫妻は朝の早い時間や放課後に、カウンター越しに話しかける生徒に対して、相談に乗ったり励ましを与えてくれています。

在校生からは好評で、品物のリクエストも行われていますが、開店から半年が経過した10月に、同窓会事務局は西川さんご夫妻と話し合いを持ち、売店で扱う品物や逆に規制する品物について意見交換しました。校内の売店であることを規範として、今後も定期的な話し合いを持つこととしました。

ある日の売店風景

同窓会活動

在校生への支援

- 奨学金・就学援助金
- 行事への援助
  強歩遠足・学園祭・弁論大会・クラブ等（全道・全国）
- 卒業生への記念品
  （卒業証書用筒）
- 校内の自販機の管理運営
- 課外活動援助
  （バスケットボール）

卒業生名簿整理

同窓会会報発行

就学援助金5000円（月額）を支給
子供に北星余市を勧めよう

北星高校が余市に教育の灯をともしてから39年。生徒の出身範囲は後志から札幌圏、そして全道・全国へと広がってきています。

同窓生も1期生から36期生まで６２３８名の規模になっています。ここ数年の間に、同窓会員の子供も北星余市に毎年入学する状況が見られます。

母校の教育活動を支援するという同窓会の目的実現のため会員の子供が北星余市へ在学中、希望したときは就学援助金を支給します。

希望される方は一定の手続きが必要ですので同窓会事務局まで申し込んで下さい。

連絡先　事務局（担当　安藤栄子）
TEL 0135-23-2165
FAX 0135-22-6097

掲示板

昭和57年卒業（15期）3年D組（吉田一先生クラス）の皆様お元気ですか？

さて、来年の2月か3月に“20年ぶり”のクラス会を行いたいと考えておりますが、住所がわからない人も多数いるようです。そこでこの掲示板を利用して皆様の消息を知りたいと思っています。

これをご覧になった方は、松村悦子（旧姓平野）までご連絡下さい。

電話011−764−6931
（夜7時以降ならOKです）。

ご連絡お待ちしています。

編集後記

今年9月、余市の実家から「野球部が今年夏の大会に続いて、秋の新人戦でも一回戦を突破したよ」との嬉しい情報が入りました。実家に下宿している生徒が野球部のキャプテンになったこともあり、早速家族揃って応援に行ってきました。

試合数日前から、「お母さんは昔野球部のマネージャーだったんだよ。岩内高校に勝った時、レフトのファインプレーが『超美技は神の微笑み』って見出しで道新に載ったんだよ！　すごいでしょ！」と夕食の度に小学生の娘たちに興奮気味に話す私に、娘たちはある不安を感じたらしく、当日球場に着くなり「**恥ずかしいから大きな声で騒がないでね！**」ときつく言い渡されてしまいました。

しかし、試合が始まると思いがけない（選手たちゴメン）後輩たちの熱い活躍に静かに応援できるわけがなく、娘たちの言いつけも忘れ**賑やかな**声援を送り続けました。

結局勝ち進むことはできませんでしたが、予想以上の活躍をしてくれた生徒達の姿に未来への可能性を見た気がしました。

時間が許せば是非また応援に出掛けたいと思っています。

卒業生の皆さん、今度は一緒に**賑やかに**応援しませんか？　（え）

「北星余市高校ＯＢの掲示板開設」

10期生板谷幹男さんが同窓生の連絡用掲示板を開設してくれました。同窓会や同期会の開催や友人同士の連絡用等ご自由にお使い下さいとのことです。同窓会会としても是非活用させて頂きます。

URL：
http://dengon.net./bbs/hokuseiyoichi

Shiripaの星 Vol.3
2003年12月1日発行

顧　　問　簑輪菊雄
編 集 長　松村　悦子（15期）
副編集長　松浦　一法（12期）
編集委員　安藤　栄子（1期）
　　本間美智子（5期）
　　馬場　希（12期）
　　平野満寿美（14期）

[発行]
北星学園余市高等学校同窓会「シリパの星」編集委員会
〒046-0003　余市郡余市町黒川町96番地
TEL (0135)23-2165　FAX (0135)22-6097
E-mail　hokuseiy@netfarm.ne.jp